



県内各地で整備が進む応急仮設住宅。熊本市では依然、1万世帯以上が入居している。写真は甲佐町内に建設された仮設住宅

熊本地震からの復興に向けて 「住まいの再建が最重要課題」

蒲島知事

松岡 熊本地震から1年3カ月近くが経ちました。熊本の経済、景気の状態を各種データから見ますと、観光分野を除き、住宅、公共事業、自動車販売など幅広い分野で絶好調と言っているような状況ですが、まず県政の現状からお聞かせ下さい。

蒲島 この席に来る前に、本誌の企画で2年前に行われた大西市長と田川会頭との鼎談の記事に目を通してきました。当時も経済は好調で人手不足の状況でしたが、懸念される状況が2つありました。ひとつは住宅の新規着工数が少ないこと。もうひとつが公共事業の需要が少ないことでした。熊本地震を経た現在とはずいぶん状況が違います。

熊本地震後の対応を4つの側面から申し上げると、まず1つ目が「住まいの再建」です。地震で住まいを失った方々の多くが仮設住宅に入居され、恒久的な住

まいの再建のステージに入っています。私の3期目の任期中に一日も早い住まいの再建を果たすことが大きな課題です。

2つ目が、「仕事の再建」です。グルー

プ補助金が大きなアナウンスメント効果を発揮したことで、震災関連の倒産件数が今年5月末時点で11件にとどまっており、大変ありがたく思っています。



クルーズ船の年間200隻入港に対応できる整備が進んでいる八代港。写真は今年2月6日に同港に寄港したロイヤル・カリビアン・インターナショナルの「クアンタム・オブ・ザ・シーズ」(16.8万トン)



Profile

熊本県知事

蒲島 郁夫

かばしま・いくお

山鹿市出身。1947(昭和22)年1月28日生まれ、70歳。県立鹿本高校卒業後、地元農協勤務を経て、68年農業研修生として渡米。74年米国ネブラスカ大学農学部卒業。79年ハーバード大学大学院修了(政治経済学博士)。筑波大学教授を経て、97年東京大学法学部教授に就任。2008年熊本県知事就任。現在3期目。著書に「政治参加」、「戦後政治の軌跡」、「政権交代と有権者の態度変容」、「逆境の中にこそ夢がある」、「私がくまモンの上司です」など

3つ目が、「文化財や道路などのインフラの復旧」です。この場所からも被災した熊本城が見えますが、大天守については、県・市でしっかり連携して2019年までの復旧を目指すとともに、石垣などの文化財については、その価値を損ねないように、20年ほどをかけて、公開できるところは公開しながら復旧工事に取り

組んでいきます。阿蘇へのアクセスルートの復旧も、2020年度末までには新阿蘇大橋と国道57号北側復旧ルートの開通を予定しており、良い形で進んでいると思っています。

最後の4つ目は、「空港や港の創造的復興」です。阿蘇くまもと空港に関しては、設計の段階から運営を民間事業者に委託する

「コンセッション方式」を導入し、国内線と国際線を一体化したターミナルビルの建設を進めています。八代港もクルーズ船の年間200隻入港に対応する整備を進めています。そういう意味では、地震で大きな被害を受けましたが、熊本の経済はしばらくの間は良い状態が続き、創造的復興を成し遂げることができるのではないかと考えています。

1万世帯以上が応急仮設住宅などに入居 熊本市民病院、「2019年夏には新病院竣工」

大西市長

松岡 次に大西市長、お願いします。

大西 震災後、行政も経済界も頑張りましたが、やはり県民、市民一人ひとりが復興に前向きに力強く取り組んでいただき、熊本の底力を見た1年3カ月だったような気がしています。

そうはいいながら、熊本市ではまだ1万世帯以上が応急仮設住宅などに入

居されています。このみなさんに1日も早く恒久的な住まいに移っていただけるよう、7月1日から伴走型住まい確保支援事業をスタートさせます。被災市民の生活が「仮の状態」から本格的な復旧の状態に進むことが、何よりも熊本の経済を活性化させると思います。例えば、仮住まいの状態では家具などもそろえようとい

う気持ちになりません。新しい住まいを確保することで需要も発生し、将来への夢も持てます。住まいの確保に県と連携しながら全力で取り組みます。

もうひとつのテーマが、震災復興計画の重点プロジェクトの一つにもなっている熊本市民病院のスピーディーな復旧です。

昨年10月に再建基本計画を策定しまし